

2028

家族で楽しむお月見セット

Family Tsukimi Set

AD32 宮本 千鶴
指導教員 比留間 真

1. 研究目的

近年ユーザーエクスペリエンスを重視した企業が増えている。これは日本人がもっている、もてなしの心と共通点が多いと感じた。

そこで古くからあるお月見を題材に伝える相手を思いやり、もてなすことを子供に体験させる為の道具を提案することを目的とする。

2. 調査と分析

お月見は、平安時代ごろ貴族が舟遊びで満月の美しさを味わい、楽しんだことが始まりとされており、農作物の感謝祭として収穫物を供えるようになった。また、お月見の現状を知るため、文化祭でアンケートを行った。その結果、お月見をしたことが無い人の割合が高かった。

さらに体験として、お月見をしたことがない小学生の従兄弟と祖母とお月見をした。事前準備として、お月見の仕方などについてまとめた小冊子を制作した。小冊子を見ながら進めたことで、お団子作りなどの準備がスムーズにできた。

これらの調査の結果、以下の問題点が明らかになった。

- (1)お月見を楽しむ習慣がない
- (2)お月見を楽しむための知識がない
- (3)お月見を楽しむための道具がない

3. コンセプトの立案

「共に楽しみ、学び、味わうお月見セット」

- (1)イベント性の向上
- (2)お月見の基礎知識を学ぶ
- (3)お月見にちなんだ道具のデザイン

4. デザイン展開

(1)お月見セット

お月見を年中行事のひとつとして楽しむ事が出来る様に、お月見に必要な道具をひとまとまりにした。(図1)セットとしてのまとまりを演出する為、おちょこ、取り皿、三方の上に乗せるうつわの形を合わせた。また、1人1セットとしてうつわに月見をするときの月の見え方をデフォルメした共通のマークをつけた。

(2)小冊子

お月見をより本格的に楽しむ為、お月見に必要な知識、準備方法を小学生でも分かるようまとめた。(図2)

(3)おちょこ

飲み物をいっぱいまで注ぐと満月、飲んでいくと半月、三日月と月の満ち欠けが見えるようなデザインにした。(図3)

5. 完成図



▲図1 お月見セット



▲図2 お月見小冊子



▲図3 おちょこ

6. 結論

問題点としてあげた、「お月見の習慣があまりない」はお月見セットとすることで気軽に楽しめるようになった。楽しむための知識や道具もこのセットで解決した。制作面では、うつわやおちょこなどの形状、制作方法の検討不足であった。

文献

- [1]十五夜、十三夜、十日夜の3月見とは？
<http://allabout.co.jp/gm/gc/220623/>
- [2]監修: 鳩居堂, 『鳩居堂の日本のしきたり豆知識』, マガジンハウス, 2013年
- [3]編集: 日本フードコーディネーター協会, 『新版 フードコーディネーター教本—3級試験対応 テキスト』, 柴田書店, 2010年